

## 事業評価表（平成29年度（2年目）実績分）

事業名	経営発達支援計画	カテゴリ	事業計画策定・実施	担当者	中小企業診断士 西岡隆
事業期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日	評価委員会実施日	開始	H29. 6. 8	最終 H30. 2. 20

### (1) 事業計画（PLAN）及び実施（DO）

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通のツールを使い専門家と連携しながら3年間の売上・利益計画とアクションプラン策定を行う。3年後には自社で事業計画を策定することが可能になるように3ヶ月に1度フォローアップを行う。</li> <li>・商業（小売、サービス業）を主にした創業塾を開催し地域内創業者の支援育成を行う。</li> </ul>	活動・手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業基盤整備機構の支援ツールを活用し、ヒアリングを綿密に行い専門家と連携し地域事業者個別事業計画の策定を実施する。</li> <li>・モデル企業を年間4事業所公募し、商工会職員複数名と専門家によるチームで検討を重ね具体的施策の提案を行う。</li> <li>・年2回（1回に付4日間）創業塾を開催し、知識習得から計画策定まで実施する。</li> </ul>
------	---	-------	---

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業者の課題解決に向けて共通の支援ツールを使い3年計画の事業計画を策定する。1年間で30事業所を目標とする。</li> <li>・地域の小規模事業者（商業）から4事業所をモデル事業所として公募し、対象の事業所に対し商工会職員と専門家によるチームで事業計画を策定する。支援経過等を可能な限り公表することで他の小規模事業者の参考にしてもらう。</li> <li>・1年以内の創業者10件を目標にし、創業塾修了後も定期的にフォローアップする。</li> </ul>
----	--

成果指標	指標の名称	単位・式	29年度	中間	最終
	・地域事業者別事業計画の策定	件数	目標	30件	
		実績		8件	21件
		達成率		26%	70%
・モデル企業（個社支援）に対する具体的施策提案	件数	目標	4件		
		実績		1件予定	3件
		達成率			75%
・「商業・サービス業」を主体とした創業塾の開催	参加人数	目標	30名		
		実績		11名	18名
		達成率		40%	60%
・1年以内の創業者、創業予定者	件数	目標	10件		
		実績		4件	6件
		達成率		40%	60%
・事業計画策定企業のフォローアップ	社数	目標	120回		
		実績		42回	78回
		達成率		35%	65%

### (2) 事業費等の推移・内訳

財源内訳	予算額	決算額	摘要	特記事項
国庫補助金	2,362,940	1,978,580	専門家謝金、旅費、広報費	事業評価委員会専門家謝金、旅費含む
一般財源				
合計	2,362,940	1,978,580		

### (3) 定性評価

事業分析 《担当者（チーム）評価》	
事業を取り巻く環境の変化	<p>(消費者ニーズ、国・県・市の動向など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業者持続化補助金をきっかけに事業計画策定の必要性を認識した事業者が増えてきた。</li> <li>一方でそうでない事業所の方がまだまだ多いようで、今後どのようにわかりやすく周知していくかが課題である。</li> <li>・モデル企業事業に関しては、筑豊地域支援協議会の施策と重複している感がある。</li> </ul>
事業の進捗状況	<p>判定 <b>C</b>    A：計画通り進捗した    B：概ね進捗した    C：進捗しなかった</p> <p>(その理由、執行上発生した問題点など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目実施した高齢者購買意識アンケート調査の結果のフィードバックを行うとともに、事業計画フォーマットを使用し、主にヒアリング、財務諸表による経営分析を実施した。1年目に35件実施したが、2年目になり経営分析に取り組む事業所の選定が困難になってきており、目標30件に対し本年度は21件と70%の達成率であった。</li> <li>・モデル企業事業は11月に1件、2月に2件（実施中）であり、最終的に3件（達成率75%）であった。</li> <li>・創業塾については、計画通り2回実施し合計18名の参加があり、1年以内の創業者の見込みは6件である。（達成率60%）</li> <li>・フォローアップに関しては、課題内容に応じた専門家を派遣し問題の解決策を提案した。（合計16回の専門家派遣）</li> </ul>
	<p>判定 <b>C</b>    A：目的を達成した    B：概ね達成した    C：達成できなかった</p> <p>(その根拠、理由)</p>

事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目に小規模事業者でも事業計画策定に取り組む意欲がある事業所から着手したこともあり、2年目になると対象となる事業者の選定に困難を伴ったことが原因だと考えられる。</li> <li>・モデル企業事業は、前年の反省を踏まえ、年度初めからチラシによる事業内容の周知に努めた。年度途中から巡回時での周知活動に重点を置いた結果、1月に続けて2事業所の申込みを得ることができた。取り組んだ事業者からは、中長期的な視点での経営計画が見込まれるようになったとの意見をいただいている。</li> </ul>
-------	---

(4) 評価 (CHECK)

評価項目	評価の観点	評価	事業分析<一次(中間)評価>
①妥当性	商工会が事業として行う必要があるか	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	経営発達支援に資すべき商工会の事業として妥当である。
	特定の事業者に受益が偏っていないか	<input type="checkbox"/> 偏っている <input checked="" type="checkbox"/> 偏っていない	
	地域商業の復興と持続化という目的に対する手段として適切か	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない	創業促進による事業者の増加および専門家派遣等により、復興・持続化が図られる。
②有効性	目的とおお期待される成果が得られたか	<input type="checkbox"/> 得られた <input checked="" type="checkbox"/> 得られなかった	達成率が低い事業もあり、やや有効性に欠ける。
	地域商業の復興と持続化という目的に対し貢献できたか	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献できた <input type="checkbox"/> 貢献できなかった	創業促進による事業者の増加および専門家派遣等により、復興・持続化が図られる。
	次年度以降もこの事業の継続は必要あるか	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	地域商業復興に資する事業である。
③効率性	利便性の向上や省力化を図る余地はないか	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	
	事業のコストは適切か	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない	
	類似事業や関連事業等、他に代わる事業はないか	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	

事業分析 <二次(最終)評価>

事業結果に対する総評	<p>(進捗状況・事業成果等に対する総評)</p> <p>概ね計画通りの進捗であると言える。</p> <p>創業のフォローに何らかの工夫が必要である。</p>
方向性の判断	<p>(理由：事業の優先・重点化の必要性など)</p> <p>できうるかぎり創業予定者を多く集めることで創業塾のやり方そのものを見直す余地がある。</p>

(5) 改善・改革 (ACTION)

事業の方向性	判定 <b>C</b> A: 継続 B: 変更継続 C: 休止 D: 廃止 E: 終了
事業の課題	<p>(事業実施上の課題等)</p> <p>事業計画作成の必要性については、小規模事業者にも徐々に浸透しつつある。</p>
今後の取組/見直し案(活動・手法等)	<p>(上記の「事業の課題」に対する改善策又は事業の今後の方策等)</p> <p>今後は、創業から持続化、経営革新さらに補助金のアドバイスの流れ(まずは事例)を作っていくところである。</p>
その他	